

2018年1月31日

名古屋市長 河村たかし様

相生山の四季を歩く会事務局 田中眞理
ラブリーアース Japan 事務局 古川善嗣
名古屋市南区豊 4-22-10
tell/fax : 052-821-6463
<http://lovelyearth.info/>

相生山緑地に「緊急車両を通す園路」構想への提案

1. 「自然を大事にする」ためには、樹林地を貫通する「園路」を新設しないでください。

道路計画を廃止にする根本は、「産業優先で道路をバカバカ造ってきた名古屋のまちに、自然を大事にしようという精神でいこうと。それが根本です」(市長発言 2014年12月26日、年末記者会見) から、地形や樹林の改変をしないことは当然です。

とりわけ、相生山緑地の生態系の核(コア)区域に道を貫通させることは、何としても避けなければなりません。

新たな工事による破壊のみならず、貫通によって動植物の生育場所は分断されます。森の乾燥化が進みます。周辺に生育するコケ、シダ類やラン科植物をはじめとする、あらゆる植物は消滅の脅威にさらされます。それは地中生物や絶滅危惧種のヒメカサキビなどの陸貝の生息を危うくし、それらを食餌としている相生山緑地の象徴種ヒメボタルを一気に絶滅させるでしょう。さらにエッジ効果は緑地全域に及び、渡り鳥も休息できない、生物の種数も個体数も少ない、貧弱な森になってしまいます。

世間の一部には「人のいのちと自然とどちらが大事か」というような乱暴な論を立てる向きもありますが、「どちらも大事」です。自然を大事にできないでいることが現代人の病みの要因になっています。「自然を大事にできなかった人びとは滅びる」ことは科学的歴史的事実です。

私たちは、こうした観点に立って「できる限り手をつけず、今のままの相生山を後世に残す」ことが私たちの責務であり、名古屋市の長期方針でなければならぬと提起し続けてきました。それはまた、何度となく実施された公私の市民アンケート

トへの回答にも数多く示されています。

これを軽視して「自然を破壊する園路」をつくろうとするなら、市民は名古屋市に愛想をつかします。「世界のAIOIYAMA」ならぬ、世界中からの蔑笑を受けることになるでしょう。

にもかかわらず、首記園路を「防災機能の確保」として検討するなら、①どのような事態に②どのように活用するのか、一般的ではなく具体的に見通しを提示すべきです。「緊急車両」をめぐるこれまでの経過をみると、「先ず道路ありき」で、後付けに「人命優先」なり「防災機能」なりが都度語られてきた感をもちます。「道路をつくらなくてもよいとする代替案作成のための」作業部会で、「園路と名を変えた道路をつくる」ことをすすめてしまえば、本末転倒、業務逸脱になりかねません。

「自然を大事にする」なら、緑地整備基本計画の策定においても、ゾーニング案検討の前に「生態系維持のためのシステムづくり」に着手する必要があります。そうしてこそ「世界に誇れる」のではないのでしょうか。

〈添付「市道弥富相生山線の事業廃止に当たっての意見書——昨12月26日公表「相生山について」を受けて」2015.2.6〉〈参照「相生山の生態系を維持するための提案書」2017.6.6〉

2. 市民への説明責任を果たし、市民と意見交換することが早急に必要です。

相生山緑地に重大な関心を持ち続け、行政と協働しようとしている人びとは広範に存在し、その知恵や知識を生かすための機会を待ち望んでいます。

相生山は一部「地元住民」だけのものではありません。名古屋市の所有地や借地対応地として、さらに事業化によって市民共有の財産として位置付けられるものです。二次林ではありますが、大都市市街地に存続するまとまった樹林地として、市外・県外からの多くの人びとも愛されています。

首記の危うい「園路」構想は、現地・現状を熟知しないまま、何らかの思い込み、既成概念によって生み出されているとしか思えません。市民の税金によって、市民の今と未来を託されている市長・市職員には公平性と専門性と卓見が求められます。

それは「庁内会議」だけに依って相生山の未来を考想するだけでなく、幅ひろい人びとの多様な意見を積極的に採り入れようとすることによって保証されると考えます。

以上、「世界の「AIOIYAMA」プロジェクト検討会議」並びに各部署での検討を進めていただきますよう、ご配慮よろしくお願いいたします。